

10 November 2001

international yearly journal for bunshihatsugen

# nakayama

[www.nakayamajpn.com](http://www.nakayamajpn.com)

**Congratulations! 5 years K-1 Lab.**

K-1 Lab's history

.....  
**Shigetsugu Hatakeyama as a poet**  
.....

.....  
**Nakayama Cup Bowling championship**  
.....

.....  
**Where are you ?**

九州大学 生体防御医学研究所 細胞機能制御学部門  
分子発現制御学分野（旧細胞学部門）

中山研究室5周年記念  
～中山敬一教授就任5周年記念の会～

日時：平成13年11月10日（土）18:00～  
場所：日本浪漫座

*Review*

- ・写真でみる激動？の教室五年史
- ・漂流教室（教室旅行記）
- ・細胞学中山杯ボウリング大会歴代チャンピオン

*article ポエム - 畠山 鎮次*

*letters to nakayama lab.*

豊野 孝	矢田 雅佳
松本 雅記	原 太一
永濱 裕康	長澤 郁子
三浦 正徳	松下 純恵
築山 忠維	下原田 加代子
宮本 顯友	西山 正章
恒松 良祐	高橋 秀尚
今木 裕幸	石田 典子

*Where are you ?*

住所録

# 写真でみる激動？の教室五年史



平成9年3月 中山研究室始動！  
最初のメンバー。



平成9年4月 最初の新入生歓迎会  
す、すくな～い。



平成9年5月 啓子先生、北川先生歓迎会



平成10年11月 九大山の家で。隙間風が寒かった。



平成11年11月 第一回生医研ソフト交流試合。  
中山軍団、惜しくも笹月軍団に破れる。翌年りべんじ。



平成12年秋  
北川助教授、浜松医科大学教授就任のお祝い。



平成13年3月 中山研初の卒業生及び小南助手の送別会



平成13年9月 教室旅行（日田市）



# 漂流教室

教室旅行記

## 一年目（平成9年） 佐賀県多久市 多久天然温泉「ゆうらく」（幹事：三浦）

- ・N教授、率先して温泉水泳大会を開く。ぼろりもあったよ。
- ・研究員T君、院生（現研究員）Y君の同性愛疑惑浮上（ホテルの部屋で。）
- ・大学生（現院生）I木君、夕飯時に至福のひととき。
- ・翌日、一行は長崎へ蘭学を学びに。

## 二年目（平成10年） 大分県玖珠郡 九大・山の家（幹事：山中）

- ・全員が体育館で異常と思えるほどスポーツで汗を流す。とにかく異常な運動っぷり。
- ・K村さんも朝まで卓球で大ハッスル。
- ・院生I田さん、体育教師と間違われるくらいの動き、声。
- ・H山助手（現助教授）誤って脱衣所でない場所で服を脱ぎ50M先の浴場へ。
- ・院生M嶋君ら、迷路するかのような九重中岳アタック。危ういながらも登頂成功。

## 三年目（平成11年） 大分県玖珠郡 泉水キャンプ村（幹事：中道）

- ・N山教授、遊園地の遊具（バードマン）で生まれて初めて恐怖という言葉を知る。
- ・N山教授、頑固そうな店主の飯屋で生まれて初めて緊張という言葉を知る。
- ・H山助手（現助教授）早朝に佐賀駅で開封を約？（買？）ってくる。
- ・佐賀開班一行、H山助手（現助教授）に開封定食をおごってもらう。（上述の件への口止め？）
- ・院生N道くん所有のマイアウトドアギアの豊富さに教室内全員大仰天。
- ・院生M本君、広大な九重高原の中、車のキーをつめてしまう。（帰宅直前に発見）
- ・M下さん、Y河内さんは去年に筋き九重中岳アタック。無事登頂成功。

## 四年目（平成12年） 長崎県南高来郡 国民宿舎「青雲荘」（幹事：中道）

- ・N教授、曾賢岳に完全に圧倒される（fugenndake knockout human 第一号）。全員に見学を促す。
- ・N教授、率先して麻雀大会を開く。
- ・院生N漢君、日本のアイガー北壁と称される島原城 北壁アタック。なんなく失敗。
- ・院生M本君、I木君、ゴーカートレースで競い合う。なんなくクラッシュ、でもふてきな嘲笑み。

## 五年目（平成13年） 大分県日田市 かんぽの宿 日田（幹事：原）

- ・初めて余興が導入される。（T松君、一年生らモーニング娘「ザ☆ビース！」に合わせて舞踊を披露）
- ・院生N山君、N山教授の歌うバラードに合わせて官能的なストリップを披露。
- ・K村先生、ゲームにより過去の情報を熱く語らせられる。
- ・H山先生ら、早朝より川魚を釣りに（買ひに？）行く。
- ・御一行様、カラオケボックスのモニター、テーブルを叩き割る。（Table 1）

Table 1 教室旅行会計報告

	収入	支出
費用	15,000円 × 29人	405,000円
宿泊料、宿泊飲食料		266,304円
カラオケ代		11,000円
お土産、お酒、本代		28,486円
ドライブ代	6,000円 × 2台	48,000円
テーブル破損代		38,010円
405,000円 - 391,800円 = 13,200円		
次回へ繰り越します。		

## 六年目（平成14年） タヒチ？、モルジブ？、台湾？、二日市温泉？（幹事：西やん？）

# *Nakayama Cup Bowling Championship*

～まっすぐに、そして純粋に、お金のためでも名誉のためでもなくひたむきに高等点を目指す者たち～

## 細胞学中山杯ボウリング大会歴代チャンピオン

第1回	豊野孝	H09.10
第2回	木村美保子	H9.12
第3回	山中篤志	H10.2
第4回	中山啓子	H10.3
第5回	永瀬裕康	H10.4
第6回	木村美保子	H10.12
第7回	大浦睦美	H11.4
第8回	丸山俊一郎	H11.12
第9回	中山敬一	H12.4
第10回	永瀬裕康	H12.9
第11回	宮本顕友	H12.12
第12回	恒松良祐	H13.3



## 細胞学中山杯年度末ボウリング大会2001 開催のお知らせ

日時	: 2001年12月21日 (金曜日)
場所	: 長浜ボウル
参加者	: 中山研関係者全て (みんなで投げよう!)
参加人数	: 30人程度
申し込み方法	: 事前にセミナー室の参加名簿に○をつけるか e-mail(taichi@bioreg.kyushu-u.ac.jp)にて前日までに受付

問合せ先: 九州大学九州大学生体防御医学研究所

細胞機能制御学部門分子発現制御学分野内 (旧細胞学)

ボウリング大会事務局 代表 はらたいち ('ら'ではないよ)

TEL: 092-642-6818 FAX: 092-642-6819

## 「中山先生、まだ6分の1ですよ。 ～中間管理職の悲哀～」

Shigetsugu Hatakeyama (Associate Professor)

Division of Cell Biology, Department of Molecular and Cellular Biology, Medical Institute of Bioregulation, Kyushu University  
3-1-1 Maidashi, Higashiku Fukuoka, Fukuoka 812-8582 JAPAN

### ぼえむ

5年前のロックビルのアパートは雪のなか。

ちりりりー、ちりりりーと台所の電話。

配偶者「ハロー、……………」「中山先生から電話！？！？！」

本人「もしもし、おひさしぶりです。おかわりありませんか。」

中山先生「もしもし、中山ですけれども、（実はまだなんんですけど）、ほとんど決まったような  
ものなんですけど、九大の教授になることになりました。先生にスタッフとして来てもらえませんか？」と唐突な展開。

本人「わかりました。」とそのベースに巻き込まれ……。

ちょっと回想：大学院卒業時にいくつかの人生の選択はありましたが、後になって考えてみると  
あまり時間をかけずに、お誘いには即答えることを良策としよう。とワシントンDCの横の町に住  
むころにはそう思うようになってしまっていた。

そして5年が過ぎ……。

最近の博多の横の大学の片隅。

ちりりりー、ちりりりーと2研の電話。

配偶者のような女性「もしもし、……………」「中山先生から電話！？！？！」

本人「もしもし、お電話かわりました。」とビベット片手に。

中山先生「もしもし、中山ですけど、ちょっと時間があればこっちへ来てほしいんだけど。」と  
唐突な展開。

ちょっと回想：またなんかイヤなことが起きたのかな？

と、教授室へ。

まだまだ、これからも唐突なことが起きるのかな？

中山先生、先は長いので御身体だけは大切にしてください。

（文責：はないことにして下さい。）



## 生医研細胞学部門での思い出。

平成9年入室 豊野 孝



生医研細胞学部門を1998年に卒業（？）してから、はや3年経ちますが、細胞学部門での生活は昨日のことのように思い出されます。細胞学部門に来た当初（1997年4月）は今と全く違って全然人がいなくて静かなラボでした。ところが、三浦君や永濱先生などの第1期の大学院生がばらばらと入学してきた途端に急にぎやかになってきました。最初の頃はよくみんなで食事に出かけたりとかしていましたが、一人一人が皆非常に個性的で自分の立場はポスドクでしたけれど、大学院時代に戻った感じがして非常に楽しかったです。研究面ではノックアウトマウスの作成のノウハウを中山敬一先生や啓子先生に習ったり、畠山先生にクローニング技術を習ったしりて、非常に有意義に過ごすことが出来ました。さらにGMやJCを通して実験の方法論や研究の進め方を教えていただいたことは、現在自分で研究を進めていく上にあたり非常に役に立っています。最後に御指導、御鞭撻を頂きました中山敬一先生をはじめとする先生方、そして周りで暖かく接してくれました、ポスドク、大学院生、実験補助員の方々そして木村さんに御礼申し上げます。そして分子発現制御学部門のこらからの益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 祝五周年

平成10年入室 松本 雅記



まずは中山先生、教授就任5周年おめでとうございます。これからも、先生のパワフルなご指導よろしくお願ひいたします。

私も細胞学部門のメンバーに加わってもう4年が過ぎようとしています。初めてラボに面接に来て鬼のような北川先生の質問攻めにあったあの日からもうそんなに経つのかと思うと、つくづく月日が経つのは早いと思います。

このラボに来てから4年間（福大での研究生活での6年間を含めると10年間）の私のコンビニ名作・新作評が中山先生になかなかの評価をいただいた事はコンビニ研究者冥利に尽きます。今後は本業の科学者業を認めていただけるよう精進していきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第一回同門会には残念ながら私用につき出席できないのが非常に残念です。

今後の中山研のさらなる発展を祈って筆を置かせていただきます。

中山教授御就任5周年おめでとうございます。



## 平成9年度入学 永濱 裕康

中山教授御就任5周年おめでとうございます。月日が経つのは早いものですね。私が最初に細胞学部門を訪れた時は少人数で、とよびーがいて（年齢不詳でごく貴重があつて上の先生だとずっと思っていた！）、北川御夫妻（美女と野獣？）がいて、セミナー室でお茶菓子をつまみながらjournal clubがあつたりして（でも厳しさは今と変わらず！？）、教授や啓子先生がfigureの説明をしてた、そんな創成期だったのを懐かしく思います。でも4年間で科学者たるものどうあるべきか、研究や学問に対する姿勢を学びなんとか無事に卒業でき、医局に戻り後輩の指導にあたっている今の私の口癖は『だめじゃん！』となってしまったのも何かの縁でしょうか。こんな私は相変わらず病棟のナースとドクターの中で声の大きい連中とともに『なんちょーず』（難聴の人は自然と声が大きくなるので）を結成して日々を過ごしております。今は臨床よりも消化器グループの廃液処理委員の仕事がメインです。というのも生医研ソフトボール大会でひねった左足が今頃になって悪くなり膝の半月板の手術をしたため、活動性が下がっているせいもありますが（口だけは活動性を保っています）。ってなわけでデス

## 細胞学部門での4年間。



## 平成9年度入学 三浦 正徳

私は平成9年4月1日から細胞学部門にお世話になりました。まだ立ち上がったばかりの教室とあって、人もまばらで、ものもまばらな状態でした。前の病院の送別会で当日の本当に朝まで飲んでいたので、真っ赤な顔して、酒のにおいをブンブンさせて行ったのを覚えています。吐き気はするし、あぶら汗はでるし、おまけに寒気、めまいまで・・・ああ！。そんななか、畠山先生はいきなりDNAはこうしてとるんだ！と教えてくださいましたが、その後の飲み会でもちょくちょくありましたが、その時の記憶があまり残っていません。本当にごめんなさい。それから4年が経ち最後の学位審査の時、これまたことあるうに僕は自分の教授をノックアウトしてしまいました。具体的な内容はあまり文章に残したくないのでこのくらいにして。ところで、日本には古来から“最初と最後は肝心なんだ！”なんてことが言い伝えられていますが、細胞学で分子生物学を学ぶという本業に関していえば、上記の通り本当に駄目なやつでした。やることと言えば、鍋やアップルパイを作つてはそのにおいを生医研中に満杯にしたり、どっか行こう！、飲み会やろう！などなど。でも、そんな僕にさえも教授をはじめスタッフの方々がいろいろと教育をしてくださったことは本当にありがたいことでしたし、今、臨床医学という少々世界が違うところにいてもその教育で得たものが役に立っています。教育をうけるというより本当は“自ら学ぶ”という姿勢が大切だったと思いますが、それはさておき、細胞学部門にいるときにはそう感じなくても、そこを離れて得たものが分かったり、見えてくる大切なものがたくさんあります。その一つといつてはなんですが、時と場合によるのでしょうか、痴癡のような教授の負けず嫌いもその一つで、あのくらいの根性？も大切な一なんて・・・。全ていろんなことを含めて、本当に4年間ありがとうございました。それと、付け加えのようになりましたが、得難い友に会えたことも大学院時代の大きな宝です。今は唐津でのんびりと生活しています。みなさん、遊びに来てください。飲みましょう！へへへ！

## 寄稿文



平成9年度入学 築山 忠維

思い起こせば、初めて細胞学部門を訪れたのは約5年近く前の事になってしまいました。最初に中山教授と会ったのは大学院入試の前日でした。その時まだ立ち上がりっていないラボの中を案内され、当時はその広さに驚いたのですが卒業時には狭いと感じるようになってしまいました。初めは全員で8人しか居なかつたので、広く感じるのは当然と言えば当然の事。それが気が付けば25人を越す大きなラボに変わり、狭いと感じるようになります。今の細胞学の隆盛は当時から考えると、同じラボとは思えないほどになりました。

細胞学に居た頃は自分の中に不平不満が無かったとは言えなかったですが、ラボを出て外から冷静に見てみると現在の細胞学部門は機器や実験手技、効率の良い研究室のシステム化、等の実験環境、大学院生の教育、研究室のactivity等の面でも、日本でもトップクラスなのではないかと思います。これは中山教授を筆頭としたスタッフの方達の努力に因るものだと感謝しています。現在NCIでポスドクをしていますが、これをもし細胞学でやってたらもっと早く出来るのに、と思う事が多いですね。また、同期や後輩達にも恵まれ(?)だと思います。特に同期は濃いキャラクターが揃っていて、私は第1期生の中では一番目立たなかつたのではないかと思います。それも感謝します(笑)。

最後に今のラボのメンバーへ。

全く不満が出ない研究室などありません。現在の細胞学部門は、日本の研究室の中でも相当恵まれている環境で研究できると思います。確かにactivityの低い研究室よりは色々なストレスが大きいと思いますが、それが問題にならないくらい得る物が大きい所だと思います。ラボの全てを取り込み尽くす位の気持ちで頑張って下さい。

と、自分がどうだったかは棚に上げて鎖で巻いて鍵をかけて海に沈め(以下略)、言っておきます。

P.S そのうちNatureかCellで細胞学の論文を読むのを楽しみにしています。

## 細胞学5周年にあたって



平成11年度入学 今木 裕幸

1997年のゴールデンウィーク前、基礎配置(当時の基礎配置は5年生のカリキュラムであった。)で初めてここに来た時、中山教授の志の高さにビビッときて大学院に来ようと思いました。最初のころは当時院生の山中さんと教授の名前が違うということに気づかず何度も「中山さん」と呼ばれた山中さんがぎょっとしていたのもいまでは微笑ましいエピソードの一つです。今では数々の修行(笑)にも慣れて最近なんとか空中浮遊が出来るようになりましたが(嘘です…すみません)まだまだ他の人のようにうまくゆかず、頑張っていこうと思います。

## 中山研5周年に向けて

平成10年度入学 宮本 順友



この度は、「中山研究室5周年」ということで誠におめでとうございます。

・・ということは、私が当研究室に来てから4年近くが経つのだな、とシミジミ・。まず1年目にして自分のレベルの幼稚さに気付かされ、2年・3年でヨチヨチ歩きの暗中模索、4年目にしてやっと立ち上がることが出来そうな気配。こんな一人一人のドラマを一挙に統括して、時代の先端へ導いていこうとする御力、教授の責任遂行力には並々ならぬモノを感じますね。しかし、世の中の大研究室をみれば、当教室など「たかが5年」程度のモノでしょう。これから、より多くのスタッフ・学生・OBを抱え、「中山研ココにあり！」と言わしめることができるか。それこそが教授の真の目標であり、期待される点ではないでしょうか。

今後も続くであろう中山研の快進撃を草葉の陰より見守させていただきたいと思います。adios！

## 中山教授就任5周年記念によせて

平成11年度入学 恒松 良祐



中山先生、教授就任5周年おめでとうございます。私は平成11年より当教室にお世話になり、はや3年目を迎えておりますが、中山先生と私といえばやはりスポーツ（ゴルフ）のことに触れないわけにはいきません。中山先生にはノックアウトマウスの作製及び解析を通じて研究に対する姿勢や考え方を教えていただいているが、私は以前、中山先生にショートアイアンの使い方、特にピンまで50mを切ってからのふわっと浮かせるアプローチショットの打ち方をお教えしたことがあります。その甲斐あってか、はたまた大学院生は実験が忙しいからでしょうか、最近では私は練習嫌いの中山先生にゴルフでもかなわなくなってしましました。といってもお互いにたいしたスコアではないんですけどね。それにしてもじっと止まっているボールを横から打つだけなのに、どうしてあんなに難しいんでしょうかね？これからもっとレベルの高い争いができるよう、私も少しは練習しようと思います。卒業してからも時々ご一緒させていただけたらいいなと思っています。そしてこれからもゴルフを続けられて、ずっとずっと先の話ではありますがAge Shooterとなられることをお祈りしております。

研究室創立 5 周年、おめでとうございます。



平成10年度入学 石田 典子

この研究室の一員になってから、なんと私は4つも歳をとってしまいました。速かったような、長かったような...そして研究室がとても大きく変わったことを感じています。まず、なんといつても人数の増加。最初はセミナー室でmeetingが行われ、毎週全員発表しなくてはいけなくて、冷や汗ものでした。JCを年に2~3回担当しなくてはいけなかったのに、最近は年に1度くらいの割合ですから本当に楽になりました！変わったといえば4年くらい前、久しぶりにお会いした中山先生は髭だらけでした。証拠写真は一階会議室に展示（？！）されているとか、あの頃とは髭も髪も...随分変わりましたよね。北川先生、小南先生が研究室から去られて、畠山先生が助教授になられ、嘉村先生が来られてノリノリ芸達者な（？）院一年生が加わりました。変化を挙げればきりがありませんが、不思議と変わらないこともあります。3研奥の実験台の上、エントロピー∞の世界。更に拡大の一途をたどっているとのH氏の証言も、変わらないといえば、飲み会の2次会か3次回がカラオケ、最後はラーメンというのはこれからずっと中山研究室の伝統になるのでしょうか？10年後、20年後の同門会2次会、更に有名になった中山先生を活躍中の研究者ら（現在の院生達）が囲んでカラオケを唄いまくるという光景を想像すると、参加したいようなしたくないような...とはいっても、何事にも全力投球という方針は変わらず、願いも成就していく欲しいと思います。そのためにも皆さん、厳しい現実に立ち向かい、アレルギーや円形脱毛症と日々闘いましょう！

もう、丸4年以上・・・・



平成11年度入学 矢田 雅佳

医学部5年生の6月に、基礎配置で細胞学に来てからいつのまにか丸4年以上が経ってしまった。はじめの頃は人が少なくて、三浦さんや永濱さんの声がいつも響いていた。だから、二人がネーベンの水曜日は“シィーン”としていて、よく“今日は二人がネーベンなんだ”と、言っていた。それからは、次々に人が増えた。

そして、気が付いたらボクは、医者じゃなくてここの大學生になっていた。ここで生活で“ハゲ”ができたりいろいろなことがあった。朝早く来るボクと帰りが遅い中山先生はよく朝出会うことがある。でも、朝はボクのほうが元気なような気がする。夜だとそうはいかないだろう。こんな毎日が続いている。

あと、一年半これからはいったいどんなことが起こるのだろう？

～この1年を振り返って～

平成12年度入学 原 太一



北川先生が浜松医科大学に行かれて不安でいっぱいスタートした去年、教授を始め、スタッフの先生方、先輩方に助けられあつという間に過ぎた一年でした。その間小南先生が転職されたり、1月より嘉村先生がこられて環境も大きく様変わりしてめまぐるしい一年でもありました。中山研はボスのカラーに代表されるように超個性的な方が多くいろいろな意味で刺激的です。なかでも第一期卒業生に関しては、中山研の創世記を支えてきた強者揃いだけあってただ者ではない猛者揃いで、個というものを全面に押し出したユニークな先輩方の集まりでした。それだけに先輩方の卒業後は、何となくボッカリ穴のあいたような雰囲気がありましたが、それもつかの間のこと、入学してきた1年生は、それにも負けないぐらい個性派揃いで以前にもまして研究室には活気があります。これが中山研カラーなんだと実感している今日この頃、今後さらに新しい後輩が入ってきて色濃くなってくると影の薄い私としては、存在が消えそうで心配です。

五周年記念心よりお祝申し上げます。

発生工学 長沢 郁子



中山教授、五周年記念心よりお祝申し上げます。五年前の桜の季節に七名のスタッフからはじまり、今では三十数名を越す大きな教室になりました。強力なチームワークのもとで日夜研究に励まれてこそ今日の成果があるのだと思います。発生工学では啓子先生のもと私達に少しでも研究のお手伝いが出来ればと可愛いマウスの為に若い人に交じって日々がんばっています。いつの日か教授の頭上にノーベル賞が輝きますことを祈って今後の御活躍を期待しております。

中山先生、教授就任5周年おめでとうございます。



平成9年入室 松下 純恵

中山先生、教授就任5周年おめでとうございます。

覚えてらっしゃらないかもしれません、中山教授と初めてお会いしたのは、臨床検査部の忘年会でした。その時浜崎先生より、『九大で一番若い教授』と紹介を受けてらして、私は、凄い方がいるものだなあと感心しておりました。不思議なご縁に恵まれてこちらで仕事をさせて頂けることになり、はや5年が経とうとしています。私が働き始めた時は6人だったメンバーが、今では30人を超える大所帯になりました。でも、教授は当時と変わらず、お忙しい毎日を過ごされていますね。

くれぐれもお体を大切になさって下さい。

今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

### テクニシャン5年間の歩み



平成9年入室 下原田 加代子

中山教授、就任5周年おめでとうございます。

そして5年間も私達を使ってくださりありがとうございます。

5年前、訳もわからず入ってしまった分子生物学の世界。聞くこと、見るもの、すること、話す人さえ珍しい物（人）ばかりで、何度も引き下がろうと思いましたが、何となくのうちに5年の月日が過ぎてしまいました。

20代前半で入った私達も今では三十路間近・・・・。今期を逃すと焦りながらも、周囲の大勢のさわやかな好青年達にさえ目もくれず、黙々と今日までラボのために頑張ってきました。何一つわからない私達に親切丁寧に実験を教えてくださり、我が子のように5年間大切に育ててくださった先生方のおかげでようやく一般的なテクニシャンと呼ばれるレベルに達したのではないかと思います。

今後は、今までの借りを返すごとく、ここ（旧）細胞学に尽くしていきたいと思います。教室名も分子発現制御学に変わったことですし、これをきっかけに、私（達）も近いうち名前は変わると思いますが、（変えたいとは思っていますが、）西村母のように、子育てをしつつもラボを支えるテクニシャンを目指して頑張りたいと思います。

細胞学との出会い



平成13年度入学 高橋 秀尚

本日は午前2時帰宅。石田さんはまだラボにいるのかと思いつつ、今、文章を作成しております。4月に細胞部に入学してより、既に半年もの月日が流れてしまいました。研究生活とは早いものです。思い返せば、僕が細胞部を初めて訪れたのは約3年前で、勉強会（ワトソンの教科書）に参加したのがきっかけでした。その初めての勉強会の第一印象はまさに強烈でした。思考回路の方が言葉より先に行ってしまうのではないかと思わせる雰囲気の先生が、とにかく熱い口調で授業を展開していて、まさに強烈だったのです。その後の僕はといいますと、皆さんもご存知のように、まさに熱いN先生、分子生物学の魅力、そして実験にはまり込むうちに、何時の間にか、医師の道をすら脱線してしまった（N先生の恩恵通り）細胞部プロテアソームに入局？（分解？？）して（されて）しました。

嗚呼、人生とは不思議なものですね～。未だに母は、僕に「秀ちゃん、内科認定医の資格はとった方がいいらしいわよ」などと、更なる医師への道を諦めていない体勢であります。僕はと申しますと、実験の厳しさに打ちひしがれ、言うなれば1000に一回の歓びのために、ひたすら忙しい毎日を送っております。もうここまで来ますと、決して後ろに退けない自分自身がいて、とにかく、この細胞部に、そして毎日（というよりも数時間おきくらい）厳しく指導して下さるH先生に感謝の意を表明いたします。細胞部5周年万歳！！

道



平成13年度入学 西山 正章

21世紀、男30代の新たな人生のはじまりに、燃える闘志を胸に抱き桜の門をくぐって早7ヶ月が過ぎた。4月、エタ钦ンってなに？って感じで、恒松さんのあとを金魚のフンみたいについてまわり、ゲルのコームを逆さに差し込もうとして悪戦苦闘した。5月、コールドスプリングハーバー出張でし～んと静まり返った教室でひとりワトソンに向かっていた。6月、グループミーティングで初めての発表。今思うとノックアウトのコンストラクトができたというだけの大した内容ではなかったが、あまりの達成感に神武と玄風館で飲んだ。7月、青く晴れわたる空とセミの声に、海が恋しくてたまらない。8月、あっちゃん達と志賀島におけるサザエの生態調査に出向き、分布、大きさ、形、味などを吟味した。9月、空の青さも日増しに薄れ、どんどん高く昇っていく力ない雲に、あ～いかんいかんと真夏の夢から我にかえると、試験では平家物語も答えられない有り様。10月、教室旅行。毎年恒例？（になるはず）の芸の練習に出発前夜は1年生の結束を熱く誓いあった。結果は：：：？

三十而立てない僕は四十になんて感っているのだろうか。

この道を行けば どうなるものか

危ぶむなけれ

危ぶめば道はなし

踏み出せば その一足が道となり その一足が道となる

迷わずにいけよ 行けばわかるさ

アントニオ猪木 (Figure 1)



**Figure 1.** Panelist selection process. Note: Panelists are asked to indicate their gender, age, ethnicity, education level, marital status, income bracket, place of residence, Geographic Registration Center classification, the most used travel mode, Children under 18, The degree, location by profession, and whether or not they do voluntary work. Characteristics, and interests in Japan, the Japan Professional Marketing Institute (JPMI) and its associations, website, or e-mail, the year, individual no., telephone number, and date of birth.

# Spontaneous expression of bearded K-1 in 1997 (5 years Prof. Nakayama)

Atsushi Yamanaka & Mihoko Kimura

Division of Cell Biology, Department of Molecular and Cellular Biology, Medical Institute of Bioregulation, Kyushu University  
3-1-1 Maidashi, Higashi-ku Fukuoka, Fukuoka 812-8582 JAPAN

A



B

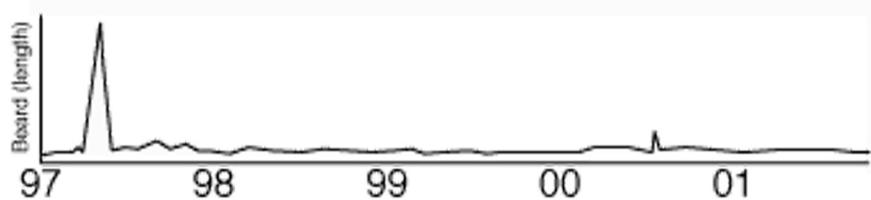


Figure 1 transient bearded K-1 in 1997

研究室が立ち上がって開もなく、突然中山教授の顎が黒く変色してきた。開もなくして突然消失したが原因は? 貴重な資料として生医研セミナー室にも臨時的な病変写真が保管されている。



Figure 2 Pitcher Prof. K-1

打倒筑月軍団を胸に秘め中山教授はひたすら投げた。中山軍団VS筑月軍団の試合成績は現時点で一勝一敗である。



Figure 3 Prof. K-1 (V-D)

飲み会の間ですら、ひたすら熱心に文献に目を追う中山教授。モードに関して調べてある途中。

## 編集後記・その1

～編集人 山中篤志～

5周年を機会に今まで中山研究室に接してきた方々全ての所在をまとめて住所録だけを作成するつもりでした。んが、教授就任5周年でそれも素っ気ない、パーティーもするのだと同窓生達と考えて中山先生や教室あてに数人の方々に言葉を頂きました。一心不乱に研究、仕事に勤しんでおられる中で執筆していただいた方々、手伝って頂いた方々ありがとうございました。勝手に自分中心で作ったので構成に批判があるかと存じますが、さあしっかり目をつぶって、どうぞ暖かい心で宜しくお願ひします。記念にもなりませんが、ほんと、すみません。編集するといかにこの研究室の人々が福岡市動植物園よりも多様であるかが実感できました。

中山先生、すみません、そして教授就任5周年ほんとうにおめでとうございます。  
(山中)



## 編集後記・その2

～発行人 南嶋洋司～

重たいファイル、言うこと聞かないプリンタ、持ち主に似て意味なく簡単にキレるマック・・・。  
前夜になって山中厚脂と格闘すること4時間。  
なんとか間に合ってよかったです。  
皆様が心ゆくまで楽しまれたであろうことを、  
遠く大分は国東の富来路に向かう車の中より  
一人お祈り申し上げます。



作成 木村美保子（住所録、写真集め）  
松下純恵（年表調べ）  
今木裕幸（年表調べ）

編集人 山中篤志（恐いけど編集責任者）  
発行人 南嶋洋司（ひげ）